

隠岐島とオノゴロ島

平成 30 年 8 月 4 日 (土) PM2:00

於：クラブツーリズム名古屋

名古屋市中区栄 3 丁目 3-2 1

神社史研究会発表 在野一生

(はじめに) 自己紹介

歴史 (古代) から神社へ。

三つの視点 ①東北アジアの中の日本列島 (弥生族の源流は山東半島)

②神は人なり (観念的創造物ではなく歴史的に実在)

③古語は字義に寄らず音意を追求すべし *新井白石「古史通」

月刊：東海財界 「濃尾探当照」2013.08～2017.12

「現代口語 真清探當證」2018.01～

(序) 本発表の前提

- ・「天孫降臨」思想は、北方 (星神) 族の思考形態、天神→山 (大陸→列島)。
- ・弥生～古墳時代観

I オノゴロ島について

§ 1 古事記の記事

§ 2 場所に関する諸説

II 隠岐島は忍許呂「別」か？

§ 1 隠岐島の特徴

水と黒曜石

§ 2 隠岐島の位置

半島と列島 (出雲) を海流で結ぶ

§ 3 隠岐島の原初的神社

- ・産土神社 木生 (きなし) 神社 祭神：五十猛尊
- ・中心神社 水若酢 (みわかす) 神社 祭神は天孫
- ・その他 焼火 (たくひ) 神社 (海人)

III 伊末自由来記

§ 1 伊末自とは？

§ 2 文献の素性は？

§ 3 記事内容は？

一紀元前一

① 【木の葉比等】 (箕翁・箕婆)、辰韓の斯羅国人。

本島西北部の主 (重) 栖と三子島の船越に集住、後に全島展開。安楽に暮らす。

② 【海族】 が出雲から島東南部の奈岐浦へ。

③ 【鞍大山祇 (久那斗) 神族】 が少数移住。

海士の於佐神が殺され、鞍山祇之大神の御子沖津久斯山祇神が来航。

④ 【於漏知 (タタラ族)】 が隠岐三子島へ来襲、隠岐本島へも侵攻。

⑤ 【宇都須山祇神】 の時、宮を東南 (奈岐浦) から於母島の西北 (主栖) へ移す。

- ⑥ 【加須屋海祇大神】へ支援依頼 * 奈賀 = na-ga = 海蛇
- ⑦ 【奈賀大人】(加須屋山祇大神の御子、妻：大山祇神の姫) 出兵、本島の於漏智を討伐
—紀元後—
- ⑧ 【奈岐命】(奈賀大人後裔)、六代目出雲大山祇神(八千矛神か?)の姫を娶る。
本島東南部を宮とし自らを奈岐命と称する。ここを根拠地として三子島於漏智を放逐。
西の島(宇留)は奈岐命が管轄し、西の島と奈賀島の海峡に海人：比等邦、奈賀島と知夫里の海峡に左路彦命を配置した。
- ⑨ 【美豆別之主之(小之凝呂別)命】が諸部を率いて来島。*天孫：天火明命と思われる。
本島西部を防衛戦として久米部を配置。同部駐屯地を役道(伊末自)と呼ぶ。比等那が統治。
三子島は、【沖津久斯山祇神】が小之凝呂山祇首として比奈・麗・知夫里を兼治。那賀は奈岐浦命が小之凝呂島海部首(→阿曇首)として兼治。
本島：主栖(於母須)で出雲山祇族、海族が栄える。遺跡多し。
- ⑩ 奈賀命(後に中言命)(阿遲鍬高彦根命の子)来島。丹波の須津姫を娶る。
※隠岐、出雲、丹波(天火明命降臨地)との連合が構築されている点に注目。
須津は現在の宮津市野田川河口。

IV まとめ

- ・ 隠岐島は、天孫族の列島進出拠点
淤能碁呂=天之忍許呂(天子邑)であれば、隠岐島こそがオノゴロ島。
- ・ 木葉人は、辰韓斯羅国人
- ・ 五十猛尊は、斯羅国王族
- ・ 【出雲の国引】志羅紀(=斯羅国)を杵築岬へ
→出雲に五十猛尊を祭る神社が多い、紀国との関係性

—在野一生【補】—

三明神(国之常立神、国狭槌尊、豊雲野神)中、豊雲野神の別名に葉木国野尊、見野尊があり、火(鍛冶・製鉄)神とされている。美濃国一宮南宮大社祭神は金山彦で周辺一帯に古代製鉄色が濃厚に漂う。濃尾一帯に豊雲野神を祭る三明神社が分布する。三河には「豊」系古地名が多い。

美濃、尾張、三河は「豊」の国。

濃尾地方は、出雲色(スサノオ)、紀伊国(熊野神社)色が濃い。

「木曾」名の元は(伊太)祁曾。伊太祁曾神社ではスサノオの子：五十猛尊を祭る素戔鳴族開拓地の古地名は「ソ原」 * 白川町、笠置山、各務原市、員弁

—隠岐島とオノゴロ島資料編—

作：在野一生

<弥生～古代の歴史観>

BC4C

AD 1 C (方形周溝墓)

AD3C 中頃

【縄文人+弥生渡来(出雲)族+丹波天孫族(海部)】+日向天孫族(物部)→⑩崇神政権

自然祭祀→銅鐸、銅剣祭祀、亀甲→祖先祭祀(鏡)、鹿骨

前方後円墳

AD5C

AD6C (伽耶滅亡) AD7C

⑮応神朝時、秦氏渡来 (神社文化の源)

→⑳雄略天皇
群集墳

→㉑欽明天皇・蘇我氏体制
仏教、古代寺院と後期方墳

<オノゴロ島と記紀>

【古事記】神代記

其矛末垂落之鹽累積、成嶋、是淤能碁呂嶋。自淤以下四字以音。

淡道之穗之狭別嶋。訓別、云和氣。下效此。次生伊豫之二名嶋、此嶋者、身一而有面四、每面有名、故、伊豫國謂愛上比賣此三字以音、下效此也、讃岐國謂飯依比古、粟國謂大宜都比賣此四字以音、土左國謂建依別。次生隱伎之三子嶋、亦名天之忍許呂別。許呂二字以音。

* 忍許呂 = 淤能碁呂

【古事記】仁徳天皇記

於是天皇 戀其黒日賣 欺大后曰「欲見淡道嶋而」 幸行之時 坐淡道嶋 遙望歌曰、
『淤志互流夜、那爾波能佐岐用、伊傳多知互、和賀久邇美禮婆、阿波志摩、淤能碁呂志摩、阿遲摩佐能、志麻母美由、佐氣都志摩美由』乃自其嶋傳而幸行吉備國

<注>淡島神社が和歌山市加太にある。

<国生みの記事>

古事記	日本書紀					
	本文	一書第1	一書第2	一書第3	一書第4	一書第5
淡道之穗之狭別島	淡路洲	大日本豊秋津洲	淡路洲・淡洲	淡路洲	淡路洲	淡路洲
伊豫之二名島	大日本豊秋津洲	淡路洲	大日本豊秋津洲	大日本豊秋津洲	大日本豊秋津洲	大日本豊秋津洲
<u>隱伎</u> 之三子島	伊豫二名洲	伊豫二名洲	伊豫洲	伊豫二名洲	伊豫二名洲	淡洲
筑紫島	筑紫洲	筑紫洲	筑紫洲	<u>億岐</u> 洲	筑紫洲	伊豫二名洲
伊岐島	<u>億岐</u> 洲・佐度洲	<u>億岐</u> 三子洲	<u>億岐</u> 洲・佐度洲	佐度洲	吉備子洲	<u>億岐</u> 三子洲
津島	越洲	佐度洲	越洲	筑紫洲	<u>億岐</u> 洲・佐度洲	佐度洲
佐度島	大洲	越洲	大洲	壹岐洲	越洲	筑紫洲

* 古事記では淡路、四国に次いで三番目、日本書記本文では五番目。後者では本州（大日本豊秋津洲）と筑紫が重視されている→日本書記は九州（日向）勢力の書。 Cf. 「神武東征」

<オノゴロ島の位置>

- ・新撰姓氏録は、友ヶ島（淡路島東南）説
- ・釈日本紀は、沼島説（淡路島南） * 定説
- ・本居宣長は、絵島説（淡路島北端）
- ・落合先生は、家島説（淡路島西北）

記紀だけから考えれば、淡路島周辺だが・・・

(参考)



友が島 (淡路島東南、淡島神社西沖)

西：沖の島、北に神島、北東部が虎島 東：地の島

記紀は 7C の歴史書=列島中心史観 ∴淡路島 (オノゴロ) →隠岐 (オノゴロ別)

But イザナギ・イザナミは、弥生渡来族 (not 列島民)

【天】アマテラス→【天子】天忍穗耳命→【天孫：降臨】天照國照彦天火明櫛玉饒速日尊
↑列島へ渡来

※天之忍許呂別 忍=天子、許呂=郷、別=天孫→天子から別れた=天孫島

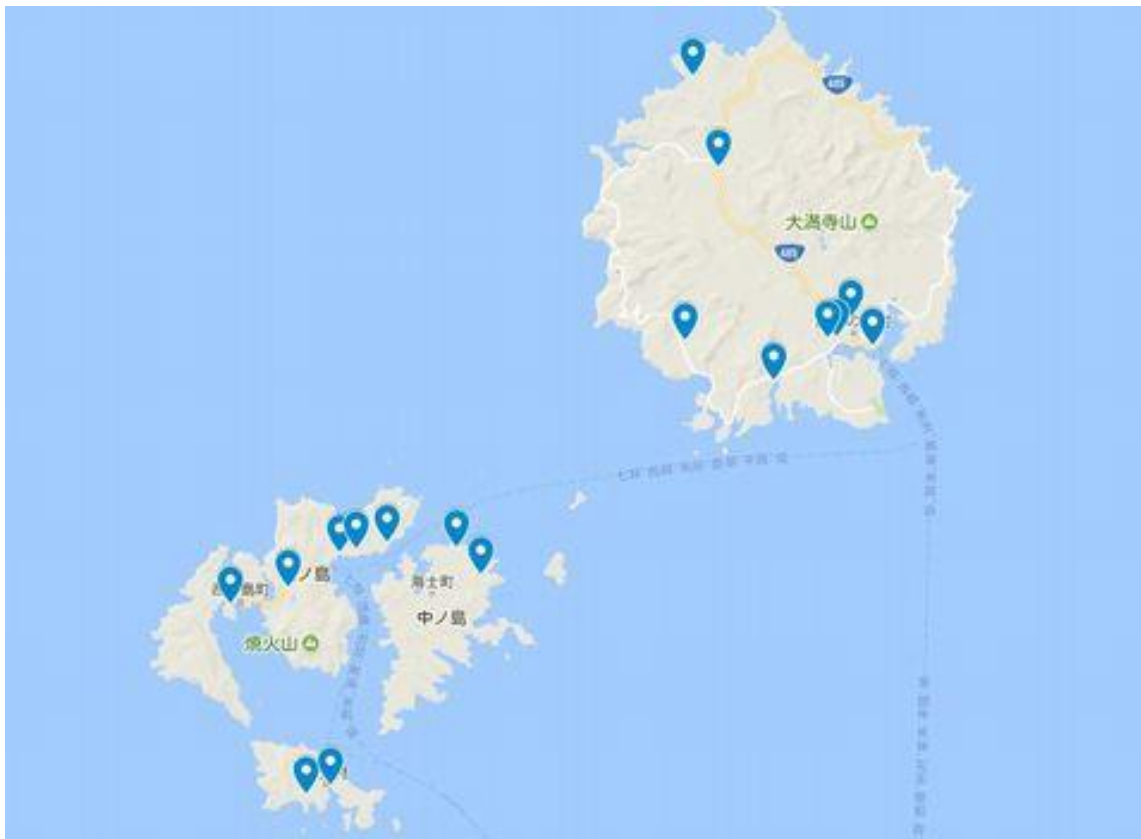
隠岐島中心神社である水若酢神社祭神は天孫神。

<隠岐島の古地名>



<隠岐国の式内社分布> (知夫郡 海部郡 周吉郡 隠地郡)

* 「神社と古事記」HP より引用



隠地郡	天健金草神社	隠岐郡隠岐の島町都万	4245
隠地郡	水若酢神社	隠岐郡隠岐の島町郡	723 *十六八重菊 (太陽信仰)
隠地郡	伊勢命神社	隠岐郡隠岐の島町久見	375 *伊勢=磯 (石) 部=海部
周吉郡	賀茂那備神社	隠岐郡隠岐の島町加茂	342
周吉郡	水祖神社	隠岐郡隠岐の島町港町	68
周吉郡	水祖神社	隠岐郡隠岐の島町八田	2
周吉郡	玉若酢命神社	隠岐郡隠岐の島町下西宮前	701
周吉郡	和気能須命神社	隠岐郡隠岐の島町下西八王子	1607
知夫郡	由良比女神社	隠岐郡西の島町浦郷	922
知夫郡	大山神社	隠岐郡西の島町美田	174 *阿多海洋族 左三巴
知夫郡	大山神社	隠岐郡知夫村仁夫	2391
知夫郡	海神社	隠岐郡西の島町別府	409
知夫郡	比奈麻治比賣命神社	隠岐郡西の島町宇賀	888
知夫郡	眞氣命神社	隠岐郡西の島町宇賀	402
知夫郡	天佐志比古命神社	隠岐郡知夫村宇都	1018
海部郡	奈伎良比売神社	隠岐郡海士町豊田	489
海部郡	宇受賀命神社	隠岐郡海士町宇受賀	747

<隠岐島の中心神社：水若酢神社概史>

水若酢神社大祭 御神体：蓬莱山巡業＋神輿

島後伊後へ降臨した水若酢大神を迎える行事

前日「馬乗り神事」重栖川源流（鈴御前）を下りつつ七回禊ぎ（川神の協力）。

赤崎鼻で北方、南方で禊ぎ（海神の協力）。木遣人（翁＝海神）

左（鏡）警護：一橋家、右（剣）警護：岩佐家、

先頭：地主の山田村、郡村の田主。一番立舞は猿田彦、的射神事。

五箇村14氏子が迎える

*「重栖」は、島後＝母（オモ）島中心地の意。

鈴御前は、天忍穂耳命の後：栲幡千千姫命の可能性もある。同姫は鈴鹿神の別名を持つ。

天忍穂耳命の子：天火明命代々の子孫を水主神社（城陽市）で祭る。

大神司家 殿舎須賀社「別家」＝別主 大伴加美（国津神）→天津神の支配

大伴の宮つ姫子 隠地郡郡司外従大領八位上大伴部大君→忌部

中言命（紀伊忌部）の統合祭祀→忌部姓

神の代理から神に仕える立場（鍵預かり）に＝横屋→代官屋→代（しろ）家

中世、民衆結束の核

守護代佐々木氏への武装蜂起、大宮司家の追放

大宮司家は祭祀忌部家、庄屋職代家の二流に。

代（忌部）神六（三代目）大宮司に。「古記」を記す→伊末自由来記。

国造家（藤原氏、億岐氏）が神威を上げた→玉若酢神社。

※中言命から十揆命祭祀が中心に

水若酢大神の足跡

伊後前の浜→捧羽山→代官屋（一橋家）→花勾→山田神社磐座（山田川）→鈴井大岩（郡川）

→岩佐巨石：熊野神体石（岩佐＝端家）→宮原（洪水流出）→姿峠→明神松現社地

*郡水（熊野）神＋山田水神＋水若酢大神（五箇村）

*木生神社（きなしじんじゃ）隠岐郡「五箇」村大苗代田 419 ・産土神社

祭神：五十猛尊（スサノオの子、大屋毘古神） *出雲に多い

合祀：田良姫命（太比良多神社）、木花咲耶姫命（花森神社）

<http://kamnavi.jp/it/izumo/kinasi.htm>

*「五箇」 扶余族開拓地名

・扶余五加 東：猪（鳥）、西：馬、南：犬、北：牛、中央：羊（羌族）

・高句麗五部 東：須奴、西：涓奴、南：灌奴、北：絶奴、中央：桂婁

↑三足鳥＝東夷系太陽神族

<伊末自とは？>

由来記に天神の子が諸部を率いて来島し防衛隊の久米部が駐屯した役道を「伊末自」と言った、とある。従って、この天神は天火明命と考えられる。

「伊」は部族名、「末」は「間 (=族)」の転訛、「自」は「地」「城」「来」 (=邑) の転訛、従って「伊族 (天孫族) 邑」の意と考えることができる。

* 「イ」ザナギ・「イ」ザナミーアマテラス—天忍穗耳命—天火明命、瓊瓊杵命

<文献の素性>

隠岐島の中心神社水若酢神社の大宮司家は大伴氏だが忌部をも名乗る。

中世、守護代佐々木氏に対して大宮司家を旗頭として武装蜂起したが破れて、祭祀家と代官家の二流にわけられ、忌部神六が宮司に就任。彼が記した社伝「古記」が元。

* 焼火山 (古代の灯台) 元々は大山神社 (阿多海洋族) の神体山。

焼火神社 (祭神: 大日靈貴尊) 隠岐郡西ノ島町美田

「伊末自由来記」の木葉人伝承

<http://takuhi-shrine.com/material.html> の「文献資料」を参照

(参考) 海部氏勘注系図

始祖: 天照國照彦天火明櫛玉饒速日尊 妻: A 天道日女命、B 市杵島姫命 (日子郎女神)
C 登美屋姫命

子: A 天香語山命 (建位起命) 妻: D 穗屋姫、E 大屋津姫
B 穗屋姫
C 可美眞手命

孫: D 天村雲命 (天五十楯天香語山命) 妻: F 阿俾良依姫、G 伊加里姫
E 高倉下

三孫: F 天^忍人命
F 天^忍男命・・・【尾張氏】母系阿俾良依姫
F 天^忍日女命
G 倭宿禰・・・【海部氏】母系伊加里姫
G 葛城出石姫 (角屋姫)

【補】

尾張一宮祭神: 天火明命 (鍛冶・製鉄神)

熱田神宮撰社高結御子神社で天香語山命の子: 高倉下を祭る。

→高結=天香語山命

高蔵山 (春日井市) 山麓の六社神社で天香語山命を祭る。

* 同山から流れる川は赤水のソブ (=鉄) 川、高倉=天香語山命。

尾張の「タカミムスビ」「高木」神の実像は、天火明命の子: 天香語山命。